術者可撤方式の固定性補綴装置の術後経過について

佐々木真澄

Post Operative History of Fixed Restoration Permitting Removal by Operators

Masumi Sasaki

I. 症例の概要

歯周治療と同時に、多数歯に歯内療法を必要とする症例においては、術後の maintenance が特に重要となるが、これらの症例に対しては、術後の経過に対応して種々の処置を行いうることが好ましいと思われる。そこで、このような症例に対して、新考案の内冠様金属製支台装置を用いた、術者可撤方式の固定性補綴装置を応用することを考案し、必要に応じて補綴装置（上部構造）を除去および再合着が容易に行え、上部構造が除去された状態では、歯周状態の診査および諸種の歯周治療が容易に、しかも確実にに行いうること、および支台歯数の変化に容易に対応しうること等の術後管理に対する本補綴装置の有用性について報告している¹⁻³⁾。

この報告では、本装置を応用した臨床例の術後経過について報告する。

患者：64 歳（初診時）、男性。

初診：平成 5 年 5 月。

主訴：咀嚼障害。

現症：残存歯は $\frac{6-2}{7} \frac{1-5}{7}$ であり、全顎にわたり歯の支持組織の破壊が進行していた。 $\frac{71}{67}$ 部局部義歯不適合、 $\frac{4}{C} 4$ 、歯根嚢胞が認められた（図 1-A）。

II. 診断と治療方針

歯周疾患による歯の支持組織の喪失ならびに上顎義歯不適合による咀嚼障害と診断し、上顎については全顎にわたる連結固定を前提とした欠損補綴を伴う咬合の再構成を選択した。

III. 治療内容

前処置に伴い $\frac{4}{C} 4$ 抜歯、歯周治療、歯内療法を適宜施し、同時にプロビジョナルブリッジを装着し、咀嚼機能の回復と支台歯、歯周組織ならびに咬合位の安定化を図った後、上顎の各支台歯に金属製の支台歯を装着し、その後上部構造である固定性補綴装置を装着した（図 2）。

IV. 経過観察と考察

平成 6 年 3 月：上顎に術者可撤方式固定性補綴装置を装着した。

平成 8 年 2 月：上部構造除去、 $\frac{6}{5}$ 内冠様金属製支台装置再合着、 $\frac{3}{2}$ 部歯肉搔爬後、上部構造再合着した。

平成 10 年現在：歯の支持組織は安定しており、咀嚼機能、歯および歯周組織、特に問題は認められない（図 1-B）。

この症例では、上顎歯の支持組織の破壊が著しく、個々の支台歯の予後の早期の判定が困難である、また各残存歯の連結固定が有効であると判断したので、欠損補綴を伴い本装置を適用した。

この方法の特徴は、必要に応じて固定性補綴装置（上部構造）の除去および再合着が容易に行えることにあり、上部構造が除去された状態ならば、歯周組織の診査および諸種の歯周治療がきわめて容易に、しかも確実にに行いうることにある。そして、固定性補綴装置に含まれる特定の歯の抜去、さらに上部構造の破損・設計変更等に対しても容易に対処しうることにある。

このように、術者可撤方式の固定性補綴装置の臨床応用には、上部構造除去時の内冠様金属製支台装置の意図しない脱離、金属製支台歯の適合性、および除去方法等のいまだ改善すべき種々の問題点は有するものの、術者の必要に応じて上部構造を容易に除去および再合着を反復しうることは、歯周状態の確認・管理および口腔機能の保全にきわめて有用性が高いことが認められた。

図 1 Intraoral views and radiographs

A : before treatment, B : four years after treatment

口腔内写真とX線写真

A : 術前, B : 術後 4 年経過時

図 2 Intraoral views

A : provisional restoration, B : metal abutments, C : cementation of fixed restoration permitting removal operators

口腔内写真

A : プロビジョナルブリッジ, B : 内冠様金属製支台装置, C : 上部構造装着

文 献

- 1) 佐々木眞澄, 佐々木達夫, 杉山太郎ほか. 歯周組織のメンテナンスに対する術者可撤方式の固定性補綴装置の有用性について. 補綴誌 38・91 回特別号: 162, 1994.
- 2) 佐々木眞澄, 佐々木達夫, 杉山太郎ほか. 歯周組織のメンテナンスに対する術者可撤方式の固定性補綴装置の有用性について (第2報). 補綴誌 38・91 回特別号: 92, 1994.
- 3) 佐々木眞澄. 術者可撤方式固定性補綴装置を適用した重度歯周病症例の4年経過報告. 補綴誌 42・99 回特別号: 171, 1998.